

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393800020		
法人名	社会福祉法人紫水会		
事業所名	グループホームオーネスト桃花林		
所在地	小牧市大字上末字道場580番地1		
自己評価作成日	H23年1月11日	評価結果市町村受理日	平成23年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2393800020&SCD=320&PCD=23
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104 加福ビル左京山2F
訪問調査日	平成23年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでは日常生活において様々な事に取り組んでいます。①回想法…大正～昭和にかけて使用された生活用品をホーム内に配置し、楽しく懐かしく昔話を映かせています。専門研修を受けた職員の指導により全職員がセッションの中で聞き役に回り、共感し合う事により生き活きと暮らしていただくという取り組みです。②桃花菜園…ボランティアさんの支援を受け野菜や花を育てています。年二回、収穫祭を開催しています。③ハンドリフレクソロジー…現在2名の有資格者がいます。オイルマッサージをしながらスキンシップを図り、癒しの時間を提供しています。このような取り組みにより入居者の方々が楽しくゆったりと穏やかな生活をして頂けるよう努めています。又、安心して暮らしていただけるよう法人内のクリニックと提携しており、看護師と24時間の連絡体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周辺には桃畑が広がり、春になれば色鮮やかに咲き乱れ毎年恒例の花見は利用者・家族の大きな楽しみとなっている。また、回想法への様々な取り組みを行っており、大正～昭和にかけて実際に使用していた、家具・家電・生活用品をホーム内に配置し実際に使用する等懐かしさと家庭的な雰囲気の中で利用者は日々生活している。様々な活動は、利用者、家族、地域住民から好評でありオーネスト桃花林としての考え方、地域での役割等が定着しつつあるといえる。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。事業所は地域に根差した活動に力を入れ、今後も介護という枠にとらわれない多岐にわたる活動を目指し、ますますの支援努力と、取り組みの充実に期待するところである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念があり介護職員室に掲示している。毎朝の朝礼では管理者と職員で唱和し理念の共有を図るようにしている。	法人全体の理念とホーム独自の理念を職員室の見やすい場所に掲示してある。管理者、職員は地域生活の継続支援にホームと地域関係性を重視した理念を大切に、充分理解し実現に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃や区の行事【八幡社の祭り、盆踊り大会、区民展など】へは積極的に参加し地域の方々と交流する機会を設けている。	地域活動には積極的に参加を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、日常的に行う散歩やお買い物といった外出支援では、地域住民とふれあう機会を作り、利用者が地域で生活する基盤の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より認知症サポーター養講座を企画開催している。又地域の保健センターへ協力し認知症勉強会及び施設見学会を開催。管理者は地域の認知症徘徊捜索ネットワークコーディネイト委員も勤める		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し活動状況の報告をし意見交換を行っている。(メンバー・民生委員、区長、行政、利用者、その家族、医務、管理者、施設長)	二カ月に一回の運営推進会議では、必ず利用者、ご家族、地域代表、市職員等の参加があり、活発な意見交換を行っている。運営推進会議で出た意見・要望は、即座に対応することができる体制が整っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れを行っている。又、市の長寿介護課へは運営推進会議の報告書と季刊誌を発送している。	担当者が利用者の様子や会議の内容やサービスの取り組み等を報告し行政との連携を深めるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しておりケアの中で身体拘束はしていない。鍵をかけないケアに取り組んでいる。	管理者・職員は身体拘束の弊害に関して正しい理解をし、身体的拘束排除の取り組みを行っている。また、訪問調査当日もホームは解放されており利用者が自由に生活する様子を見ることができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や事例検討会で学び理解していて、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学び必要に応じて説明できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホーム代表者と管理者が十分な説明を行い理解していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。併せて面会時や電話連絡時には意見を聞かせていただくように努めている。又、年二回の家族会開催時にはアンケートにより要望の把握に努めている。	二カ月に一回の運営推進会議では報告、情報交換を行いサービスの質の確保、向上につなげている。家族が来所時には職員との会話で要望を聞く機会に努めている。また、吸い上げた意見はすぐさま運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の働く意欲につながるよう、職員からの意見や提案を聞き運営推進会議に提案できるようにしている。	会議以外にも日頃からコミュニケーションの中で代表者や管理者が現場職員全員の意見やアイデアをしっかりと取り入れ一緒に話し合いながら働く意欲の向上や質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や個々の努力に対して認めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間研修計画があり、研修は勤務の中で対応している。外部研修についてもできるだけ勤務の中で参加出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者連絡会や外部研修を通じ交流する機会を持っている。互いに相談しサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は本人の思いやホームでの生活をする上での不安や希望を十分にお聞きし思いを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、ご家族が困っている事、不安や要望を十分に話していただけるよう働きかけを行い受けとめる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人と家族がまず何を必要としているかを見極め情報提供も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の思いを大切にしながら、人生の先輩である事を忘れず尊敬の気持ちを持ち、家族の一員として教えてもらう姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況をお伝えし家族とコミュニケーションを図り誠実な対応を心掛けている。こちらで出来かねない事に対しては協力していただき、一緒に本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員が同行し自宅周辺を散歩したり、馴染みの喫茶店や美容院などへ出かけることができるよう援助し、入居前の関係が途切れないよう支援している。又、何時でも面会にきていただけるような環境を整えている。	利用者一人一人の生活歴を把握し、家族との協力の下出来る限りの支援を行っている。年々意思表示が難しくなり、一時帰宅時の支援などでは家族が対応に苦慮するなどの課題もある。場所や時間に配慮して、少しでも関係継続が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りで状況を把握し、状況によっては職員が間に入る事により、利用者が孤立せず係わり合いを持っていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、時折顔を見せてくださる方もあり、気軽に立ち寄れるような雰囲気と環境を整えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話し合いを持ち傾聴している。利用者の思いや意向を大切に、出来るだけ希望に添えるよう努めている。	日々の関わりの中で丁寧な声かけで思いや意向について把握に努めている。常に利用者にとってどのように暮らすことが最良なのかをご家族と協力し話し合っており取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報提供や本人との話し合いの中で、入居されるまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い心身共に安定した状態で暮らして頂けるよう状態の把握に努め、その方の有する能力を活かしていきけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当を中心に本人や家族の意見を反映した介護計画書を作成するよう努めている。	本人の意向や家族等の要望や、職員の意見やアイデアの確実なものを一つ一つ計画的に反映させている。また、利用者の希望・状態の変化があった場合は、現状に即した介護計画を作成し、臨機応変に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動記録に入居者の24時間の変化、ケアプランに沿った実践・結果を記入している。又、その情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の介護施設があり、各事業所と連携をとり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方とは密接な関係にあり、協力して頂きながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回主治医の往診により健康管理をしている。歯科・皮膚科・眼科等も協力医がおり随時受診していただいている。又、家族が希望するかかりつけ医の受診も事業所で支援している。	利用者、家族の希望を大切に納得した医療を月2回主治医の往診や毎日数時間訪問に来ていただいている看護師により健康管理している。歯科、皮膚科等専門医の受診も協力医療機関に受診でき利用者家族の安心感に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と連携をとり、日々の健康管理や医療活用できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医務と管理者が入院先の病院へ出向き、家族や病院と話し合いの機会を持つようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に希望を聞きながら重度化した場合は主治医と相談して対応していく事を説明し、意向の確認と看取りの同意書をとっている。	重度化に伴う意思確認を入居時にご本人、家族と話し合いを行い方針を決定している。また、心身状態の変化に伴い、家族・医師と連絡を取り合って、ケアの方向性を定め、利用者をサポートしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命講習に参加している。夜間は緊急マニュアルができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に非難訓練を行っている。災害時の対応マニュアルも作成している。	非常災害時には迅速に避難誘導ができるように、地域住民や消防署の協力の下定期的な訓練を行い、日頃から職員の防災意識を高めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段のケアの中でプライバシーを守るよう職員間で徹底している。個人情報の書類は保管庫に収め管理はきちんと行っている。	個性の違いを十分に認識して、誇りやプライバシーを損ねないように対応している。個々人が反応しやすい呼称、声の大きさ、目線などに気をつけて、さりげないケアを心がけている。気づきは職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者それぞれに合わせた言葉かけや誘導を行い、本人が納得できるような説明を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的なきまりは作らず、一人一人のペースで希望に添ってその人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者は施設内の理美容を利用できる。又、家族との外出で外の理美容を利用していただけようになっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りの際は利用者と一緒に話し合い希望を取り入れるようにしている。又、利用者の身体状況に応じて、準備や片付け等、できることを一緒に行える働きかけを行っている。	メニューは利用者と相談しながら決めている。利用者は自分の得意分野を發揮し職員と育てた家庭菜園の野菜、ご近所からの新鮮な食材の差し入れ等を使い職員と一緒に楽しく食事を一日の大切な活動のひとつとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、体重の増減を記録し体調の変化に配慮している。又、食材の形態は一人一人の状態に合わせ、主食も普通飯、軟飯、粥の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声をかけ、一人一人の状態に合わせたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、失敗の軽減を図っている。又、トイレで気持ちよく排泄できるよう声掛け促しを行っている。保清にも心掛けている。	個々の排泄リズム・ADL・健康状態の把握のため排泄記録している。その記録を基に一人ひとりに適したサポートをおこない自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料やヨーグルトなど整腸作用のある食品を取り入れている。水分の摂り難い方に対してはゼリー状の物を用意し水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調を観ながら毎日希望の時間に入浴できるよう配慮している。又、浴槽に畑で栽培しているハーブや花を浮かべたり、入浴剤で温泉気分の味わうなど、入浴を楽しむ事ができるような支援をしている。	入浴は利用者の希望に添って心情を察した配慮で行っている。また、季節に応じてしょうぶ風呂や敷地内で育てたハーブやバラ、よもぎ等をお風呂に入れることで、利用者にとって入浴が楽しみとなるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにも休息できる場所を作っている。疲れている様子が見られれば休息を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬手帳を付け薬剤情報を確認できるようにしている。又、副作用については医務よりアドバイスを理解している。服薬はその都度確認し記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、楽しみ事を把握し、個々の身体状況に応じて、その方の有する能力を活かした役割を持つ事ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日にはホームの庭にテーブルを出し外気浴をしながら食事やお茶を楽しみ会話を持つようにしている。個別の外出では、スポーツ観戦に出かけたり、それぞれの馴染みのお店に出かけるなど希望に添って支援するようにしている。	庭での食事やお茶タイム、ボランティアの協力で収穫祭を行ったりドライブでお買い物、公園等外出支援等、気分転換やストレス発散をすることができるように日々様々な取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は小口現金をお預かりし収支は定期的に報告している。お小遣いを自分で管理し自販機や近隣の農家の無人販売で果物等購入される方もおられ、一人一人の希望に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用する方、施設内の電話を利用する方等、本人自らやりとりができる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と一緒に季節感を感じていただけるような飾りつけを行っている。又、適度な音量で音楽を流し安らげる空間作りの工夫をしている。居間の畳みコーナーは昭和の茶の間を再現し懐かしい雰囲気の中で、心地良くくつろげるようにしている。	窓が大きく広々とした季節感や生活感のあるリビングは、明るい日差しの中、利用者お気に入りのソファに座りゆったりと自分らしく過ごしている。居心地の良い工夫に努めている。また、大正～明治にかけての実際に使用されていた家具・家電・生活用品等を配置し、懐かしさと家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどの配置を工夫し、各々がお気に入りの場所で過ごせるよう配慮している。セミプライベートゾーンを設け休息できる場所も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物以外、家具等、利用者の馴染みの物を持ち込み自由になっており、居心地良く過ごせるよう家族も一緒に工夫していただいている。	フロアの飾りや家具の配置など馴染みの品を職員と一緒に配置し利用者にとって安全で居心地の良い場を整えられるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。各居室には洗面台が設置されている。浴室、トイレ、廊下等には手すりが設置されている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 地域活動には積極的に参加を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、日常的に行う散歩やお買い物といった外出支援では、地域住民とふれあう機会を作り、利用者が地域で生活する基盤の構築に努めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 二か月に一回の運営推進会議では、必ず利用者、ご家族、地域代表、市職員等の参加があり、活発な意見交換を行っている。運営推進会議で出た意見・要望は、即座に対応することがでいる体制が整っている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 担当者が利用者の様子や会議の内容やサービスの取組み等を報告し行政との連携を深めるように努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 二か月に一回の運営推進会議では報告、情報交換を行いサービスの質の確保、向上につなげている。家族が来所時には職員との会話で要望を聞く機会に努めている。また、吸い上げた意見はすぐさま運営に反映させている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○ ○ ○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺には桃畑が広がり、春になれば色鮮やかに咲き乱れ毎年恒例の花見は利用者・家族の大きな楽しみとなっている。また、回想法への様々な取組みを行っており、大正～昭和にかけて実際に使用していた、家具・家電・生活用品をホーム内に配置し実際に使用する等懐かしさと家庭的な雰囲気の中で利用者は日々生活している。様々な活動は、利用者、家族、地域住民から好評でありオーネスト桃花林としての考え方、地域での役割等が定着しつつあるといえる。また、事業所が自己満足になることのない利用者・家族本位の支援は、利用者の安心・安定につながり、家族の安心・満足に届いている。事業所は地域に根差した活動に力を入れ、今後も介護という枠にとらわれることのない多岐にわたる活動を目指し、ますますの支援努力と、取組みの充実に期待するところである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。